

日本スキー学会24回大会
2014年3月16～18日
新潟県妙高市関温泉スキー場

マスターズアルペンスキー選手の 特徴について（第2報） －各県スキー連盟の取組み－

○山根真紀（至学館大学短期大学部）

武田 文（筑波大学大学院人間総合科学研究科）

【マスターズスポーツとは】

「過去や現在のスポーツキャリアにとらわれず，成人・中高齢者の個々人が，自己のスポーツ意欲や技術の向上，競技する楽しみ方を成熟・熟達化させていこうとするスポーツライフ」（長ヶ原）

【マスターズ大会】

<競技別>

陸上競技 水泳
テニス
バドミントン

<総合大会>

- ねんりんピック
- 全国スポーツ・レクリエーション祭
- 日本スポーツマスターズ

マスターズスポーツ愛好者の増加

背景：スキー人口の変化

- スキー・スノーボード人口の減少 (レジャー白書)
 - » 1860万人 (1993) ⇒ 970万人 (2011) -47.8%
- 競技スキー人口の減少 (高校体育連盟)
 - » 3684人 (2003) ⇒ 2608 (2013) -29.2%
- マスターズスキー人口 +54.8% 
 - » 1067人 (2001) ⇒ 2363人 (2012)
- アルペン競技登録者数に占めるマスターズ登録者
 - » 約16% (2001) ⇒ 約40% (2012)

背景：マスターズスキー選手の特徴

●年代の特徴

- ≫ 競技の中心は**40～60歳代**
- ≫ 70歳代も15%
- ≫ 30歳代は少ない

●地域別特徴

- ≫ 競技人口の多い10県のうち、半数がいわゆる **「雪なし県」**
- ≫ 1位：東京 2位：長野 3位：愛知

目的

- 生涯スポーツとしてスキーが発展，成熟するためには，マスターズスキー選手の全体像（競技活動、身体機能、精神健康の状況およびそれらの要因）を多角的に明らかにすることが必要不可欠
- 本研究では，マスターズスキー人口の多い県を対象に，各県スキー連盟がマスターズスキー競技に対しどのような取り組みをしているのか，アンケート調査やヒアリング調査で明らかにする。

方法

- マスターズスキー登録人口の多い上位10県を対象
- 各スキー連盟にアンケート調査を依頼
- 2013年11月～12月に実施
- 調査内容はマスターズスキーに関する取り組みや配慮点, 今後の期待など
- 10県のうち神奈川県を除いた9県が回答

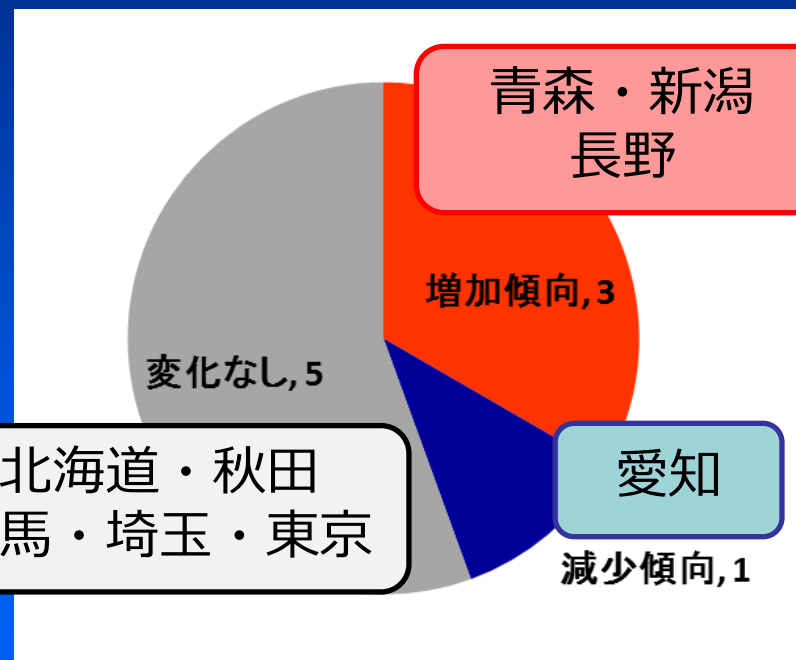
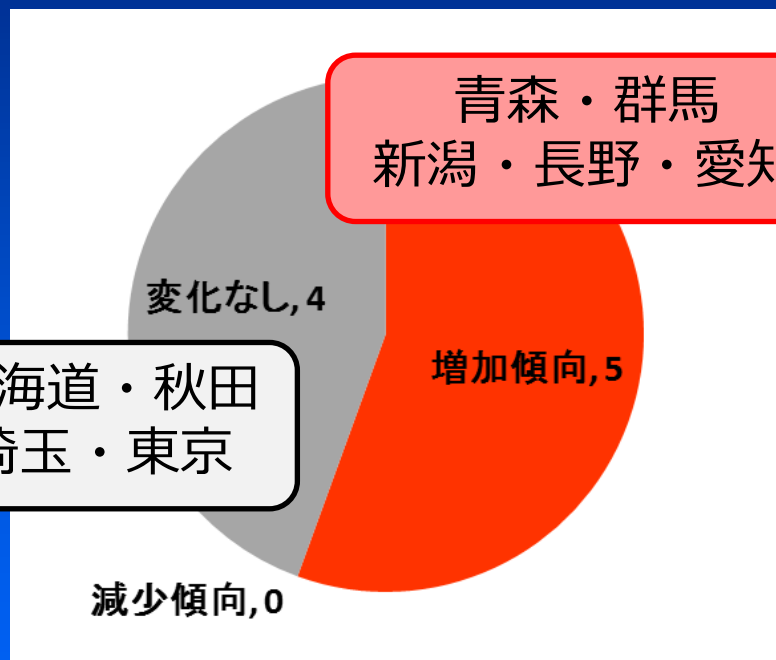


図 1. 2012-13シーズン
マスターズ登録者数

Ⅰ マスターズスキー人口や大会数の推移についてどのように認識しているか

A. ここ数年の競技人口の推移

B. ここ数年の大会数の推移



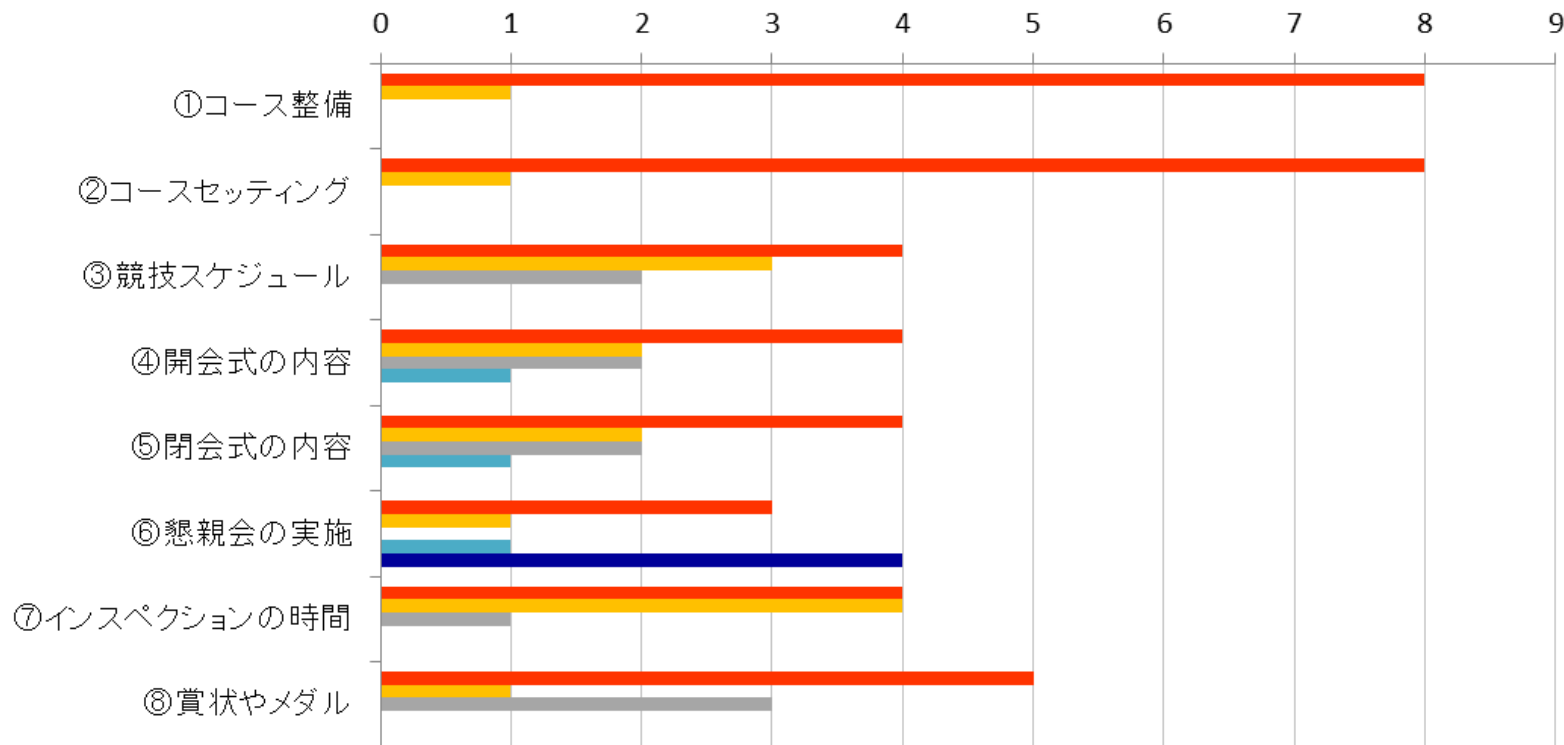
- 競技人口及び大会開催数は微増あるいは変化なし
- 「スキーブーム時代の方々が中心になってスキー競技をしているので、そろそろ増加傾向から横ばいなるのでは」(新潟県)
- 「50歳以上は微増傾向にあるが、それ以下の若年層は減少傾向にあるため、総数で変化なしか微増傾向」(東京)

II マスターズスキー普及のための方針や企画, イベントなどの状況

県	委員会	方針や企画, イベント
東京都	×	主催マスターズ大会前に大会コースを使用したレーシングキャンプの実施。主催大会に対するアンケートの実施。
長野県	×	県スキー連盟と連盟OB会との会合により大会の運営方法を年数回議論。会議内容をふまえた大会開催
愛知県	×	全日本マスターズ大会に100人参加するため運営が大変, 会員相互での応援や協力の依頼。大会前に合宿形式での練習
新潟県	○	新潟県スキーマスターズの会(昭和60年)が主体となりマスターズスキー大会への協力。年2回会報。マスターズ委員会
群馬県	×	回答なし
北海道	×	回答なし
埼玉県	○	選手はお客様で大会役員はサービス業, 参加選手にダイレクトメールで大会要領などを郵送
秋田県	○	東北マスターズスキー大会の主催, 秋田県マスターズスキー協会
青森県	東北マスターズ	子供からシルバーまでが「滑り, 走る」ことをモットーに, すべての方を選手として公平に取り扱う。ひとつでも多く参加できる大会をふやすこと。最高齢者の方に会長賞, 技術大会も実施

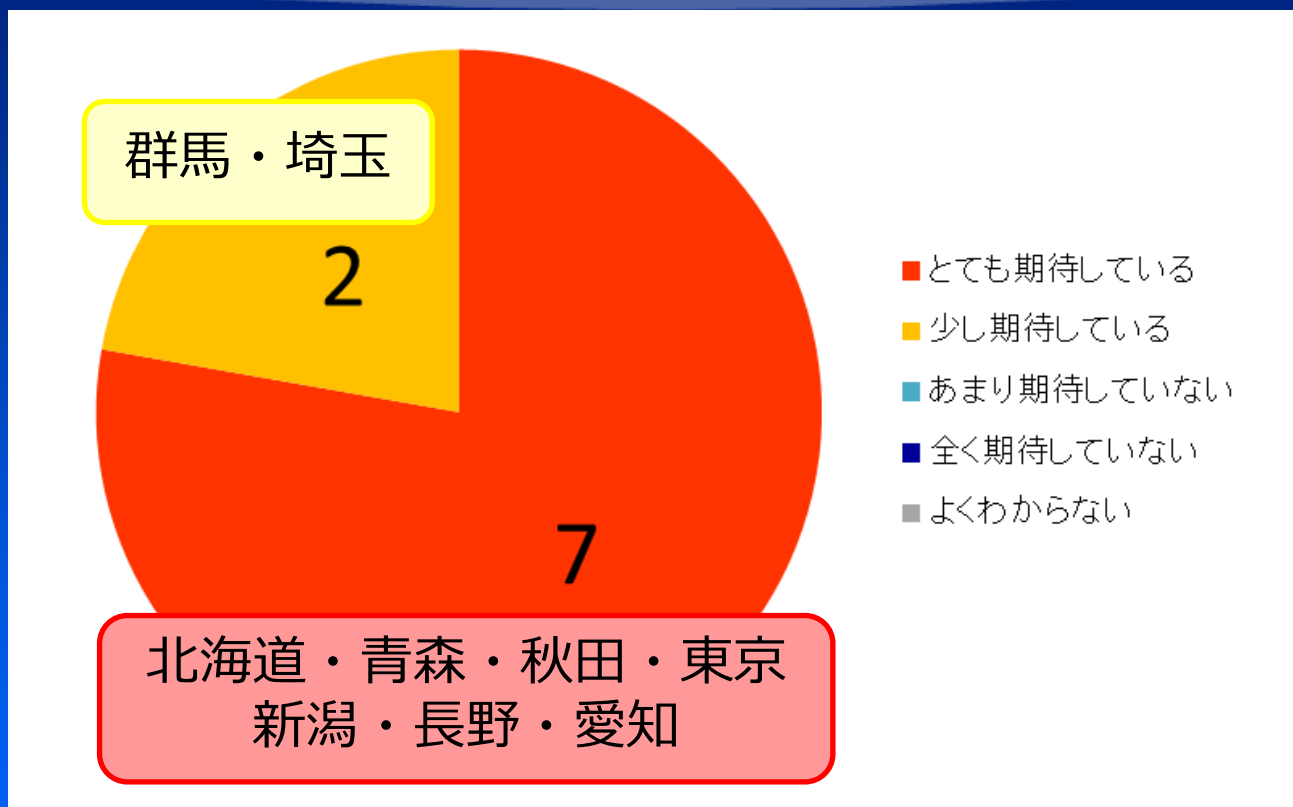
III マスターズスキー大会開催に当たり、配慮していること(通常の大会と比較して)

■ とても配慮している
 ■ 少し配慮している
 ■ どちらともいえない
 ■ あまり配慮していない
 ■ 全く配慮していない (県)



●安全面を優先(青森・群馬), ●宿泊施設の紹介(秋田), ●要項をわかりやすく(埼玉県), ●できる限り快適な休憩所を確保, 連盟会長・猪谷千春氏のメダルプレゼンター(東京), ●スキー場、リフト料金、各旅館等々の配慮を要請(新潟)

IV マスターススキーに対する期待



<理由>

●生涯スポーツとしての発展(東京・長野・新潟・秋田・埼玉・群馬) ●スキー場のある地域の活性化(秋田) ●ジュニアの育成(愛知) ●選手自身が日頃適度なトレーニングを実施することで健康維持・増進に励んでいるため、高齢者医療費の低減にも寄与(東京)

まとめ

県スキー連盟はマスターズスキーに対し、 どのような取組みをしているのか

●安全対策

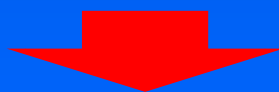
‣ 年齢を考慮した安全な大会運営

●組織化

‣ マスターズ委員会，東北マスターズスキー大会

●サービス

‣ 宿泊，リフト券等の配慮，快適な大会，賞



【期待】 生涯スポーツ・地域の活性化